

# 令和4年度文化芸術による子供育成推進事業－巡回公演事業－

## ワークショップ実施計画書

制作団体名	一般社団法人 金剛会
公演団体名	一般社団法人 金剛会

### 内容

- ① 始まりの挨拶
  - ② 「能」・「狂言」とは？
  - ③ 絵本読み聞かせ「鞍馬天狗」
  - ④ 謡(うたい)を全員で体験してみよう
  - ⑤ 能面をつけてみよう  
＜休憩＞(10分)
  - ⑥ 「能」・「狂言」の舞(まい)や所作を全員で体験してみよう
  - ⑦ 能「鞍馬天狗」を演じてみよう
  - ⑧ 質疑応答
  - ⑨ 終わりの挨拶
- [所要時間90分(途中 10分休憩含む)]

### ▼公演当日のワークショップ

- \* 狂言「柿山伏」の鑑賞にあたって
- \* 能「鞍馬天狗」参加しよう！～稽古・リハーサル～

### タイムスケジュール (標準)

到着	搬入・仕込み	ワークショップ	内休憩	撤去	退出
8:30	8:30～9:45	10:00～11:30	10分	11:30～12:15	12:15

### 派遣者数

能楽師:5名(シテ方4名・狂言方1名)、スタッフ:1名 計6名

### 学校における事前指導

特にありません。

令和4年度文化芸術による子供育成推進事業—巡回公演事業—

本公演実施計画書

制作団体名	一般社団法人 金剛会
公演団体名	一般社団法人 金剛会

演目
①能のお話 ②狂言「柿山伏」の鑑賞にあたって ③狂言「柿山伏」の上演 ④能「鞍馬天狗」参加しよう！～稽古・リハーサル～ ＜休憩＞(10分) ⑤能「鞍馬天狗」の鑑賞にあたって ⑥能「鞍馬天狗」の上演 ⑦能楽師との交流の時間～感想と質問～ ⑧終わりの挨拶 [公演時間90分(途中10分休憩含む)]

派遣者数
出演者:21名(スタッフ兼任:1名含む)、舞台・運搬スタッフ:4～6名 計25～27名

タイムスケジュール (標準)					
到着	仕込み	本公演	内休憩	撤去	退出
8:30	8:30～11:30	13:30～15:15	10分	15:20～17:20	17:20

実施校への協力依頼人員
搬出入時及び会場設営時に2,3名のお手伝いをお願いすることがあります。

## 演目解説

### ▼狂言「柿山伏」について

典拠:「宇治拾遺物語」の「実ならぬ柿の木」に説話がみられる。

あらすじ:

山伏が修行を終えて故郷に帰る途中、喉が乾いてしまい、ふと見上げると見事な柿があることに気づく。木の下から落とそうと試みるが、中々巧くいかなかったので、木に登って柿を食べてしまう。ところが、誤って口にしてしまった渋柿を投げ捨てたところ、見廻りに来ていた持ち主に当たり、無断で柿を食べていたことに気づかれてしまう。柿の木に登っているのは犬だ、猿だ、鳥だ、鳶だと言われる度に、それらの動物の鳴き真似でその場を凌ぐものの、最後に鳶は飛ぶものだ、と言われ、飛んではみるものの、大怪我をして悪事が露呈してしまう。自分の罪を覆い隠そうとする山伏の滑稽な姿を、面白おかしく描いている。

### ▼能「鞍馬天狗」について

作者:宮増某(一説に世阿弥とも)

典拠:源義経の幼少期を題材とした能。「平治物語」の牛若丸の條、幸若の「未来記」などの伝説から取材したものと考えられる。

あらすじ:

鞍馬山西谷の花見の招待を受けた東谷の僧は、稚児たちを連れて西谷へ行き、花見の宴を開く。そこへ一人の見知らぬ山伏が侵入して来たので、僧たちは座を立てて帰ってしまう。沙那王(牛若丸)は、一人居残って山伏に対し好意を示す。山伏は沙那王を連れて花の名所を見せて廻った後、実はこの鞍馬山に住む大天狗であることを明かし、明日の再開を約して僧正が谷へ飛び去る。翌日沙那王は、約束の場所に来て待っていると、大天狗が輩下の天狗を従えて現れ、沙那王に兵法の奥義を伝え、平家を滅ぼす時に力を添えることを約束して、夕影の暗くなった鞍馬山の杉の梢に飛び去って行く。

## 児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

- 狂言「柿山伏」の鑑賞にあたってのコーナーで狂言の特徴的な所作などを全員で体験します。
- 能「鞍馬天狗」へ稚児役として一部の児童・生徒が舞台に立ち、全員が鑑賞位置から地謡役として参加します。

## 児童生徒とのふれあい

- 当日出演する能楽師が子どもたちとコミュニケーションをとりながら解説します。
- 鑑賞後に能楽師との交流の時間を設けます。子どもたちが鑑賞を発表しあったり、能楽師からも感想を伝え、子どもたちからの質問にも答えます。